

～令和7年度の活動報告と令和8年度の事業計画～

昨年度をふりかえって

理事長 山本恵由美

■当法人は広島県とその近郊における森林や里地、里山などにおいて、自然環境の保全、資源の有効利用、環境保護意識の醸成など、森林整備や環境教育に関する事業を行っています。

■メイン活動の定例会では「地域貢献プロジェクト」として各地の地域団体等の森づくりを支援し、併せて安全と技術の伝承のためスキルアップ研修の要素も取り入れてきました。さらに外部講師を招聘して特別講習会も開催。また、森林管理における多様なニーズに応える各種の部会活動においても、それぞれが活性化を図ることを試みながら次代を担う森林づくりの人財育成を推進してきました。

■令和7年度においても広く公益に寄与することを目的として、自治体、企業、市民団体と協働し、社会貢献活動を積極的に展開しました。（交流事業は例会を始め学校・行政・企業の依頼を含みます。）

《森づくり活動及び啓発人数》

■交流事業 合計	倶楽部会員=464人	・	体験者=計 723人
■里山部会	= 149人	・	体験者=16人
■クラフト部会	= 245人	・	体験者=346人
■環境教育研究部会	= 276人	・	体験者=134人
★倶楽部会員合計	= 1,134人	・	★体験者の合計=1,219人

★倶楽部会員の合計

= 1,134人

★体験者の合計 = 1,219人

総合計 2,353人

今年度取り組んでみたい事

■酸素や水を育み大きな力で多くの恵みを与えてくれる森は、私たちの暮らしを守る“宝物”。よりよい未来、環境、社会を育むために私たちは森づくりを推進し、森林保全の重要性を積極的に啓発する使命を有しています。

■しかしながら森林整備活動は一般には理解は進んでおらず、活動のハードルが高いイメージは払拭できていません。それによって広島の多くの団体は活動人数も減少あるいは横ばいが続いている現状の中で、当法人では多様な協働により、実際の活動の魅力を周知する機会を得て年間10名近い意欲的な人財が入会しています。森づくりの素晴らしさや非日常を楽しむ有意義な活動のイメージを創る取組みが功を奏しています。

■今年度の方針としては30周年という節目に

- ① 創立30周年記念行事の開催。
- ② 例会の活動（施業）計画の精査。
- ③ 会員同士の交流を源に例会運営を始め林業技術のスキルアップを積極的に希望する会員には研修等で技術の伝承を行っていく。
- ④ 活動の継続に必要な財源の確保に向けた収益事業の開発。
- ⑤ 幅広い市民や企業人の受入れを行えるよう魅力発信の広報に力を入れる。

■恒例になった部会の活性化にも着手し、8年度は20年目の環境教育研究部会を支援するなど内外の充実を図り、持続可能な社会を形づくって行くために、森林をどう維持・管理・活用していくのかを改めて考える検証の年にします。